

## 新型車載端末 8月から発売

光英システム

光英システム(本社・東京、葦津嘉雄社長)は、トラックのCAN・BUS(コントローラー・ユニット・ネットワーク)データを利用して毎秒の燃料使用量を計測できる新型車載端末(K250)の開発に成功。八月からの発売を予定している。この端末は、同社のユーザーである運送会社や荷主から強く要望されていたもので、今回の開発

成功により、デジタルタコグラフ、車載システムといった機器がなくてもドライバーに省燃費運転を正確に指導できるデータ取得が可能になった。一部のトラックメーカーから発売された車載端

末に燃料使用量を計測できる製品があったが、自社のトラックだけしか計測できないため、複数のメーカーを利用して運送会社や荷主は使うことができなかった。

同社は、メーカーに依存しない世界標準のCAN・BUSを利用して、トラックの走行速度、エンジン回転、使用燃料などを計測する装置を開発。どのメーカーのトラックにも同装置の搭載が可能となった。

販売計画は一年目が五千台、二年目が一万台、三年目が一万五千台。販売予定価格は十五万円。